

科目名	母性看護方法Ⅱ (マタニティサイクル各期の看護) Maternity Nursing Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	岩田 朋美 (101) 杉山 泰子 (103) 大平 肇子 (104) 渡邊 聡子 (102) 市川 陽子 (105) 辻 まどか (105) 日置 理瑚 (105)	教員への連絡方法 (メールアドレス)							
履修年次	3年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	マタニティサイクルにある女性および新生児の健康を支援するために、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における健康の保持増進、疾病予防および健康への回復過程について看護の目的・方法を修得する。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	F 地域社会に暮らす人々の健康課題の解決に向けて、対象に応じた看護を提供できる。(技能・表現)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による協働活動に参加できる。(技能・表現) E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
到達目標	1. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の生理的特徴について理解し、各期における適切なアセスメントができる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における対象のニーズおよび健康問題を評価し、支援の方向性を理解したうえで、基本的な支援技術を実施することができる。											
成績評価方法(基準)	筆記試験(70%)、演習課題(30%)											
再試験の有無と基準等	有：不合格者全員を再試験受験資格者とする。 再試験は筆記試験のみで評価する。											
教科書	母性看護学Ⅱ 周産期各論 第3版 (医歯薬出版株式会社)											
参考書等	必要時、紹介します。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業は事例を用い、妊産婦および新生児の状況を具体的にイメージしながら、看護について考えられるよう展開します。学生には、主体的・積極的な取り組みを期待します。また、自己学習を必須とし、母性看護に必要な知識および基本的な援助技術の修得を目指してください。											
備考												
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	授業の進め方 妊婦の看護①				本科目のオリエンテーション ・母性看護方法Ⅱの授業の進め方 ・母性看護方法Ⅱの学習方法 妊婦の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。				岩田	講義		
2回	妊婦の看護②				妊婦・胎児の健康状態をアセスメントし、妊婦・胎児および家族の健康生活を支援するために必要な看護について学ぶ。 ハイリスクな状態にある妊婦の特徴と看護について学ぶ。				岩田	講義		
3回	産婦の看護①				産婦の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。 産婦の健康状態をアセスメントし、分娩進行に応じて産婦とその家族を支援するために必要な看護について学ぶ。				杉山	講義		
4回	産婦の看護②				ハイリスクな状態にある産婦の看護について学ぶ。 胎児心拍数モニタリングの方法と判読について学ぶ。				杉山	講義		
5回	褥婦の看護①				褥婦の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。 褥婦の健康状態をアセスメントし、褥婦および家族の健康生活を支援するために必要な看護について学ぶ。				岩田	講義		
6回	褥婦の看護②				ハイリスクな状態にある褥婦の特徴と看護について学ぶ。 帝王切開術を受ける産婦および術後の褥婦の看護について学ぶ。				岩田	講義		
7回	新生児の看護①				新生児の身体的、心理・社会的特徴について学ぶ。 新生児の健康状態をアセスメントし、胎外生活への適応促進のための看護について学ぶ。				岩田	講義		
8回	新生児の看護②				ハイリスクな状態にある新生児の特徴と看護について学ぶ。				岩田	講義		
9回	母性看護における看護過程①				母性看護における看護過程の基本を学ぶ。				岩田	講義		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
10回	母性看護に必要な看護支援の実践①	事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術とアセスメントの 実際を学ぶ。 ①～⑤をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 新生児の全身状態の観察 ③ 新生児の清潔援助 ④ 褥婦の健康診査 ⑤ 母乳育児支援	岩田他	演習
11回	母性看護に必要な看護支援の実践②	事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術とアセスメントの 実際を学ぶ。 ①～⑤をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 新生児の全身状態の観察 ③ 新生児の清潔援助 ④ 褥婦の健康診査 ⑤ 母乳育児支援	岩田他	演習
12回	母性看護に必要な看護支援の実践③	事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術とアセスメントの 実際を学ぶ。 ①～⑤をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 新生児の全身状態の観察 ③ 新生児の清潔援助 ④ 褥婦の健康診査 ⑤ 母乳育児支援	岩田他	演習
13回	母性看護に必要な看護支援の実践④	事例にもとづき、母子の看護に必要な基本的援助技術とアセスメントの 実際を学ぶ。 ①～⑤をグループごとに実施し、評価する。 ① 妊婦の健康診査 ② 新生児の全身状態の観察 ③ 新生児の清潔援助 ④ 褥婦の健康診査 ⑤ 母乳育児支援	岩田他	演習
14回	母性看護における看護過程②	母性看護における看護過程の展開を学ぶ。	岩田	演習
15回	母性看護における看護過程③	母性看護における看護過程の展開を学ぶ。 事例にもとづき保健指導案の作成について学ぶ。	岩田	演習

学 習 課 題

- 2回目課題（事前）：妊婦の看護について教科書等を参考にしながら自己学習する。
- 3・4回目課題（事前）：産婦の看護について教科書等を参考にしながら自己学習する。
- 5・6回目課題（事前）：褥婦の看護について教科書等を参考にしながら自己学習する。
- 7・8回目課題（事前）：新生児の看護について教科書等を参考にしながら自己学習する。
- 9回目課題（事前）：看護過程を検討できるよう自己学習する。
- 10～13回目課題（事前）：以下の①～⑤の援助技術の実施にあたって必要な内容を自己学習する。
① 妊婦の健康診査 ② 新生児の全身状態の観察
③ 新生児の清潔援助 ④ 褥婦の健康診査
⑤ 母乳育児支援
- 10～13回目課題（事後）：実施した①～⑤の演習記録を、指定の期日までに提出する。
※上記の演習記録が提出されたことを前提として、記述内容を評価する〔配点15%〕。
- 14・15回目課題（事前）：①看護過程のグループワークが行えるよう、事例の看護過程を展開する。
②事例の退院後の生活を具体的にイメージし、必要な退院指導について考える。
- 14・15回目課題（事後）：グループワークを経て再検討した看護計画を、指定の期日までに提出する。
※上記の演習課題の記録用紙が提出されたことを前提として、記述内容を評価する〔配点15%〕。

実務経験を活かした教育の取組

担当教員は全員、看護職としての実務経験を有する。看護の実践、教育および研究活動の経験を活かし、本授業の講義および演習を行う。